

令和5年度行政評価（令和4年度対象）シート

政策5 魅力に満ちた活力のあるまちをつくる

施策501 観光の振興

主担当課：産業課

○施策の目指す姿

地域資源を活用した観光の振興が図られ、地域の活力が醸成されるとともに、市外からの来訪者が増加しています。

○施策の展開

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 魅力あるまつりの開催 | 7 観光活動を行う団体への支援 |
| 2 観光施設の魅力向上の推進 | |
| 3 オリジナル土産品の開発・情報発信 | |
| 4 観光地域づくりの推進 | |
| 5 レンタサイクルの運営 | |
| 6 観光情報発信力の強化 | |

○令和5年度 事務事業評価実施事業（令和4年度対象）

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 観光誘客促進費 | 3 レンタサイクル費 |
| 2 まちの観光・産業賑わいプロジェクト費 | 4 観光協会事業費補助金 |

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

清洲城の有料入場者数（人） ※清須市調べ	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	61,123	59,381	35,786	46,299	74,120
清洲ふるさとのやかたでのおみやげ品販売額（千円）※清須市調べ	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	10,736	12,607	7,185	10,553	19,418

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 清洲城、キリンビール名古屋工場等の特定の施設見学のみで周遊せずに終わってしまうのが、清須観光の構造的な課題となっている。このことが、飲食等での観光消費に結びついていないことで、結果的に市内事業者への恩恵が限定的である。
- まちの観光・産業賑わいプロジェクト費（地方創生推進交付金充当事業）では、上記の課題に鑑み、観光周遊の仕組みと魅力ある特産品（定番グルメを含む）の開発によって、観光消費の拡大を図る方向性を公民で共有・連携しながら事業を組み立てることを志向する。
- 清洲城は、今後、更なる誘客力を発揮して、清須の観光を牽引する役割が期待されており、当該施設の管理・運営のあり方については、民間活力を導入する方向性で検討を具体化していく段階に至っている。

II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…ととしている。

達成度指標	基準値	後期計画 目標値	実績値			目標値の 達成見込
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	
市民満足度調査における満足度	20.5% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	17.7% (令和3年度)	—	—
休日の滞在人口率（各月の休日平均滞在人口 [14時] / 国勢調査人口の年平均）※	0.89倍 (平成29年度)	0.93倍 (令和6年度)	0.93倍 (令和2年度)	1.03倍 (令和3年度)	0.98倍 (令和4年度)	◎
清洲城の入場者数（有料）	61,123人 (平成30年度)	85,000人 (令和6年度)	35,786人 (令和2年度)	46,299人 (令和3年度)	74,120人 (令和4年度)	▲

後期計画期間の達成状況の分析

- コロナ対策を講じながらウィズコロナ、アフターコロナを見据えた不特定多数の人出を見込んだイベントを開催することができた。今後のイベントを開催するときも、市民の理解が得られ満足していただけるようなイベントを進めていきたい。
- 清洲城の入場者数はV字回復をしている。コロナが収まりつつある状況の中、NHK大河ドラマ「どうする家康」が放送され、愛知県も観光に力を入れており、お城や戦国に関連するイベントが多数行われていることも増加の要因と考える。また、イルミネーションを開催したことも入場者数が増加した要因の後押しをしている。

III 令和4年度の主な取組結果

- きよすイルミ2022では清洲城初のプロジェクションマッピングをはじめ清洲城から古城跡公園にかけてイルミネーションを行った。実施期間中は金土日の夜間臨時営業を実施した。また、桜開花時期には月曜日を休館せずに営業を行った。
- 訪日外国人向けや国内観光客に対し名古屋市内の観光案内所（名古屋駅、金山駅、栄地区）にきよすスポットのリーフレットや清洲城観光チラシ、きよすイルミ2022チラシを設置、また名古屋駅周辺のホテルにチラシ設置を依頼した。
- 横浜で開催されたお城EXPOにも出店し、清洲城を中心とした観光啓発や観光協会の商品であるカレー、御城印を販売しPRを行った。
- NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送に合わせて、春日公民館において歴史講演会とトークショーを行った。歴史講演会では奈良大学教授の千田嘉博氏を講師として招き、トークショーでは石川数正役である松重豊氏と番組チーフプロデューサー磯氏を招いて行った。
- JR名古屋駅コンコースにおいて、PR特設ブースを設置し3/24～3/30までの1週間、清須市の観光やグルメなどPRするチラシを配布した。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和3年度	令和4年度	R4目標値	R4実績値と達成状況		R4目標値	R4実績値と達成状況	
観光誘客促進費	169 [85.8]	9,973 [90.4]	清洲城おもてなし業務の実施日数 (日)			清洲城及び清洲ふるさとのやかたにおける「kiyosuFreeWi-Fi」への接続件数（件）		
			115	0	—	4,500	1,453	▲
事業の有効性の評価	清洲城や清洲ふるさとのやかたを核とした事業を実施し、市内流入人口増加を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	「きよすイルミ2022」については、清須市商工会が実施していた「清洲城サクライルミ」を踏襲しつつ、世代問わず来場したくなるような仕掛け（マッピング・光る絵馬、提灯等）や雰囲気づくりを行った。また、キッチンカーを誘致することで、来場者の満足度向上に繋げた。							
まちの観光・産業賑わいプロジェクト費	21,327 [98.9]	26,925 [90.5]	観光・産業きよす会議（仮称）の開催回数（回）			きよす異業種交流フェスティバルの来場者数（人）		
			1	1	○	1,000	3,000	◎
事業の有効性の評価	観光・産業振興を通じて、市内の中小企業が潤うための仕組みづくりを行い、また、併せて観光まちづくり主体である市観光協会の体制強化を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	ふるさとのやかたの来館者の滞在時間を延伸や売り上げを向上させるため、くつろげる空間の創出、魅力的な商品の陳列、市内事業者の製品・技術の紹介をするなど工夫を凝らした店舗の改装となるように清洲ふるさとのやかたを改修、整備した。また、ご当地グルメ参加店舗への交渉も粘り強く行った。							
レンタサイクル費	198 [37.5]	177 [60.6]	あしがるサイクルの利用者数（人）					
			500	220	▲			
事業の有効性の評価	本市は広域アクセスは優れているが、域内移動に課題を抱えているため、清洲城を起点とした二次交通手段として、市内の観光名所への周遊や、それに伴う観光消費の創出を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	清洲城周辺で実施したイベント（信長まつり・きよすイルミ）等を中心に機会をとらえて事業のPRを行った。							
観光協会事業費補助金	1,800 [100.0]	2,740 [100.0]	観光協会の会員数（人）			観光協会ホームページのアクセス件数（件）		
			200	156	▲	114,000	164,197	◎
事業の有効性の評価	清洲城をはじめとした歴史的な地域資源や会員事業者の店舗情報の市内外へのPRを通じた観光誘客や特産品開発等を行っている清須市観光協会に補助金を交付し、事業基盤の安定化を支援する。							
事業実施にあたり工夫した点	令和2、3年度に引き続き新型コロナウイルスの影響で自粛したイベントもあるが、市外でのイベントを中心に、昨年度までに制作した観光情報発信コンテンツ（HP・冊子等）を有効活用しつつ、観光PRに注力した。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 長引くコロナ禍により観光業界は引き続き厳しい年となったが、コロナ対策を講じながらイベントも徐々に再開されつつあるなかで、観光協会のご当地グルメを中心としたイベントやイルミネーションやプロジェクションマッピングを活用したイベントも大変盛況であった。
- 清洲ふるさとのやかたの店内改修により、お城の来城者の市内滞在時間が延びた。また、観光消費におけるご当地グルメのPRも功を奏し、観光客の市内の滞在時間が大幅に延伸した。積極的な情報発信を行ったことが大きな効果をもたらし、テレビや新聞などマスコミで取り上げられることで市外からの多くの誘客が見込めることができた。しかしながら、今後も継続的な特産品開発などアイデアを提案し、いかに観光を後押しする事ができるかが課題である。
- 少しづつ戻りつつあるある観光需要や円安によるインバウンド需要、現在放送中の大河ドラマで戦国時代が注目を集めていることを考慮し、先を見据えた誘客促進策を検討する必要がある。

令和5年度行政評価（令和4年度対象）シート

政策5 魅力に満ちた活力のあるまちをつくる

施策502 商業・工業の振興

主担当課：産業課

○施策の目指す姿

商業・工業の振興と安定が図られ、中小事業者をはじめとする市内の商工業者がいきいきと活動しています。

○施策の展開

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1 商工会等への支援 | 7 オリジナル土産品の開発・情報発信 |
| 2 高度先端産業立地の推進 | |
| 3 企業の再投資への支援 | |
| 4 資金融資制度の利用促進 | |
| 5 創業に対する支援 | |
| 6 東京圏から移住する起業・就業者に対する支援 | |

○令和5年度 事務事業評価実施事業（令和4年度対象）

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1 商工業振興事業補助金 | 3 首都圏人材確保支援事業費補助金 |
| 2 中小企業金融対策費 | 4 まちの観光・産業賑わいプロジェクト費 |

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

市内卸売業・小売業の事業所数※ 商業統計調査、経済センサス基礎 調査・活動調査	平成21年	平成24年	平成26年	平成28年	令和3年
	760	679	679	660	624
市内製造業の事業所数 ※経済構造実態調査	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
	194	189	186	192	国 集計中

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、市内商工業者の経営状況や消費者心理に明るい見通しが立てられない状況が続いており、市として国・県とも連携しながら各種経済対策を推進している。
- 令和3年4月28日公表の東海財務局による経済情勢判断では、直近の愛知県経済について「新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に厳しい状況があるものの、持ち直している」と総括しており、感染防止対策を講じつつも、各種経済対策に一定の効果を確認している。ただし、集団免疫を獲得できておらず、特效薬もない状況は当面継続するため、今後の経済動向は、予断を許さない状況である。
- 商工会は、小規模事業者支援法に基づく「経営発達支援計画」を策定し、同計画に基づいて小規模事業者の持続的発展を支援している。

II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…ーとして

達成度指標	基準値	後期計画 目標値	実績値			目標値の 達成見込
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	
市民満足度調査における満足度	15.1% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	15.6% (令和3年度)	—	—
市内の民営事業所数	2,495事業所 (平成28年6月1日)	→ (令和6年度)	—	2,501事業所 (令和3年度)	—	—
市内の民営事業所の従業者数	28,535人 (平成28年6月1日)	↑ (令和6年度)	—	28,893人 (令和3年度)	—	—
創業支援事業による創業件数	18件 (平成30年度)	25件 (令和6年度)	20件 (令和2年度)	16件 (令和3年度)	29件 (令和4年度)	◎

後期計画期間の達成状況の分析	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染症の拡大による地域経済の低迷を受けて、ビジネスチャンスの機会が減少している状況である。ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたビジネスの在り方や働き方改革など、社会情勢に合わせた方法や内容のビジネスが求められる。 ■ コロナで傷ついた市内事業者を支援する仕組みや商品券事業を活用とした消費喚起をきっかけとする地域経済の活性化など、市民が市内でお金を回す循環型の仕掛け作りを構築する必要がある。
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III 令和4年度の主な取組結果

- 【清須げんき商品券】令和3年度に引き続き、30%のプレミアム付商品券事業を実施した。スーパーやドラッグストアに利用が集中しないように、零細事業者での利用を促すため、「マル得商品券」10%を進呈した。また、利用特典を設けた零細事業者をチラシで大きく扱う等のPR支援を実施することで、本事業の効果を参画店舗が幅広く享受できるよう努めた。

- 【清須からあげまぶし】令和3年度からご当地グルメとして誕生した「清須からあげまぶし」は2事業者3店舗の撤退を余儀なくされたが、令和4年度には2事業者が新規参入し、現在、7事業者8店舗で提供をしている。また、令和4年度にはマスコミに大きく取り上げられ、市内外へ広くPRできたに伴い、清須からあげまぶしの食べ比べができる「きよすフェス」では、販売開始から1時間余りで1,200食を完売することができた。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和3年度	令和4年度	R4目標値	R4実績値と達成状況	R4目標値	R4実績値と達成状況	R4目標値	R4実績値と達成状況
商工業振興事業補助金	30,012 [100.0]	30,012 [100.0]	商工会の会員数（人） 1,450 1,452 ◎			商工会が主催する講習会等の開催回数（回） 60 42 ▲		
事業の有効性の評価	市内小規模事業者の経営並びに技術の改善及び発達の指導の推進を図るため、商工会が行う事業の経費に対して補助金を交付し、地域商工業の振興及び安定を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	新型コロナウイルス感染症の影響で、商工会事業を縮小せざるを得ない中、商工業振興・消費喚起施策として、市が行った商品券事業（清須げんき商品券）では、参画事業者の募集・換金等業務で市と商工会とで緊密に連携し、事業の迅速かつ着実な実施につなげた。また、イルミネーション事業は大変好評であり、規模を拡充して行う状況にあっても連携を迅速に行うことができた。							
中小企業金融対策費	108,571 [97.6]	109,041 [98.0]	商工業振興資金融資の信用保証料に対する助成件数（件） 130 48 ▲			小企業等経営改善資金融資の利子に対する補助件数（件） 20 0 ▲		
事業の有効性の評価	愛知県小規模企業等振興資金融資制度要綱に基づき、中小企業者が融資を受ける場合に必要な信用保証料や利子を助成することにより、中小企業者の借入負担を軽減し、中小企業の振興に寄与する。							
事業実施にあたり工夫した点	コロナ禍や物価高騰に苦しむ中小企業者からの問い合わせに対して、セーフティネット保証とあわせて本市制度も案内し、利用の促進を図った。							
首都圏人材確保支援事業費補助金	0 [0.0]	0 [0.0]	首都圏からの移住者に対する補助件数（件） 1 0 ▲					
事業の有効性の評価	生産年齢人口が首都圏へ集中している現状を打開することが地方創生機運の発端であり、本事業はまさに直接的に首都圏人材を地方へ還流するための取組として、相談窓口を設けている意義は大きい。							
事業実施にあたり工夫した点	昨年度は相談が1件もなかった。							
まちの観光・産業賑わいプロジェクト費	21,327 [98.9]	26,925 [90.5]	清洲ふるさとのやかたでおみやげ品販売額（千円） 12,400 19,418 ◎			オリジナル土産品の開発数（件） 2 4 ◎		
事業の有効性の評価	観光・産業振興を通じて、市内の中小企業が潤うための仕組みづくりを行い、また、併せて観光まちづくり主体である市観光協会の体制強化を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	ふるさとのやかたの来館者の滞在時間を延伸や売り上げを向上させるため、くつろげる空間の創出、魅力的な商品の陳列、市内事業者の製品・技術の紹介をするなど工夫を凝らした店舗の改装となるように清洲ふるさとのやかたを改修、整備した。また、ご当地グルメ参加店舗への交渉も粘り強く行った。							

V 施策の評価と今後の方向性

- コロナ対策の一つである、市独自の経済対策として好評を得ている清須げんき商品券事業を継続することで、地域経済の消費喚起を図った。
- NHK大河ドラマの影響もあり、お城の入場者数が増え、同時にふるさとのやかたへの来館者も増えている。店内も改装し、地元の新鮮野菜の販売やお土産品の充実も功を奏し、やかたの売り上げも増加傾向にある。また、からあげまぶしがメディア等にも取り上げてもらい注目を集めているため、今後の参加店舗をいかに拡充していくかが重要である。
- ご当地グルメの「清須からあげまぶし」を食べ比べることができるイベント「きよすフェス」は大変好評を得ており、当日参加人数3,000人、販売開始から1時間余りで1,200食を完売するなど大盛況であった。今後は、他の事業と一緒に考えるなど思考をこらしたイベントを行うなどとして、集客につなげて行く必要がある。

令和5年度行政評価（令和4年度対象）シート

政策5 魅力に満ちた活力のあるまちをつくる

施策503 都市近郊農業の振興

主担当課：産業課

○施策の目指す姿

農地の多面的機能を生かして、都市開発と均衡の取れた農業の振興が図られ、農家だけでなく市民全体がその利益を享受しています。

○施策の展開

- 1 農業関係団体等への支援
- 2 耕作放棄地対策の実施
- 3 農業体験の機会提供
- 4 食育の推進
- 5 農業用施設の整備
- 6 農地等保全活動への支援

○令和5年度 事務事業評価実施事業（令和4年度対象）

- | | |
|---------------|---------|
| 1 農業振興対策事業補助金 | 3 食育推進費 |
| 2 農業体験塾費 | 4 土地改良費 |

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

総農家数（戸）※世界農林業センサス、農林業センサス	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
	778	754	683	546	425
経営耕地面積（ha）※作物統計調査	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	257	254	248	238	233

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 農業従事者の高齢化及び世代交代により、農業協同組合等への業務委託及び農地転用が増加し、経営耕作地面積は減少している。国の施策である農地中間管理機構への貸し出しや、市の農地バンク制度の利用は例年数筆あるが、新規参加者はおらず、問題解決には至っていない。
- 市街化区域に残された農地では、都市化の進行により、ますます農業がしにくい状況になってきている。一方、都市農業振興基本法が平成27年に施行され、防災空間の確保、良好な景観の形成、農業体験の場の提供など、農地がもつ多様な機能が見直されてきている。

II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…とされている。

達成度指標	基準値	後期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	
市民満足度調査における満足度	13.5% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	13.8% (令和3年度)	—	—
地産地消を心がけている市民の割合	34.7% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	33.1% (令和3年度)	—	—
市内の耕作放棄地面積	34,880㎡ (平成30年度末)	28,000㎡ (令和6年度末)	36,402㎡ (令和2年度末)	49,795㎡ (令和3年度末)	60,044㎡ (令和4年度末)	▲

後期計画期間の達成状況の分析

- 市内の耕作放棄地面積の減少に向けて、農地パトロールを強化し、土地所有者に対して農地の適正な管理をお願いしていく。
- 清須市の特産野菜については、市内の小中学校の一部においてPRには努めているが、まだ市場に出回る数が少ないこともあり、市民の目に触れる機会が少ない。今後地産地消を心掛けている市民の割合の増加に向けてさらなるPRが必要である。
- 地産地消の事業として、『飴茶庵』『きよすふるさとのやかた』で地産地消の推進や空き店舗活用を目的とし、農業体験塾で採れた野菜を販売した。

III 令和4年度の主な取組結果

- 【農業振興対策事業補助金】
地区実行組合に対して集落活動推進のための補助を実施した（組合49件、組合員953戸）。
- 【農業体験塾】
次世代の農業者の育成を図るための農業の機会を提供するため、農業体験塾を開催した。20名が参加し、土づくり、野菜の苗植えから収穫までを行った。
- 【食育推進費】
食育推進のため、春日小学校での宮重大根の種まきから収穫までの体験、芳野保育園でのさつまいもの収穫体験を実施した。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和3年度	令和4年度	R4目標値	R4実績値と達成状況		R4目標値	R4実績値と達成状況	
農業振興対策事業補助金	1,464 [97.0]	1,458 [99.6]	地区実行組合員数（世帯）					
			941	953	◎			
事業の有効性の評価	各地区の実行組合に対して集落活動の推進のための補助を実施することにより、営農環境の充実が図られ、農産物の品質向上や農業経営の安定につなげることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	補助金の用途を限定せず、各地域の課題に対応した幅広い使途に利用できる制度とすることにより、集落の活性化につなげることができた。							
農業体験塾費	446 [99.8]	445 [99.9]	農業体験塾の塾生数（人）					
			20	20	○			
事業の有効性の評価	農業を通じて、一般の市民に食の大切さや収穫の喜びを体験する機会を提供し、清須産野菜の栽培、普及を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	農業体験塾の活動の中で、より塾講師の説明を聞きやすいように新規で行う内容については、生徒を集めるように工夫した。その結果、現場での態度が積極的になったことで、塾内での交流を深めることにより、地域コミュニティを活性化することができた。							
食育推進費	1,337 [95.5]	1,154 [73.0]	野菜収穫体験・料理教室の開催回数（回）			食育レポートの発行回数（回）		
			12	10	▲	4	4	○
事業の有効性の評価	食に関心を持ち、食の大切さを学び、食文化の理解を深め、自然の恵みや感謝の心を育む「食育」を市民一人ひとりが実現していくため。また清須市産の特産野菜を振興することにより食を通してふれあい、育みあう街づくりを実践することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	市が通年行っている食育レポートを年4回ホームページに掲載し、市民に食への関心を持ってもらうように啓発をした。また、きよすフェス食育ブースにて、外部講師を招き、清須市の特産野菜である宮重だいこんを利用した料理教室を行ったり、フードドライブボックスの設置に協力した。							
土地改良費	66,492 [99.9]	75,066 [96.5]	用排水路の整備延長（m）			農道の舗装延長（m）		
			500	232	▲	200	0	▲
事業の有効性の評価	土田地区、寺野地区、西田中寺野地区、西牧・新田地区、福田排水路地区において、用排水路の整備等を実施することにより、農業環境が充実し、農業生産性の向上を図ることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	用排水路の整備等にあたっては、設計段階から事業費の縮減を図りつつ、事業効果を最大限高めることに努めた。また、補助金を活用するなど事業実施に係る財源確保を行った。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 市内の耕作放棄地面積の減少に向けて、農地パトロールを強化し、土地所有者に対して農地の適正な管理をお願いしていく。
- 市民の農業への理解を深めるため、農業体験塾の開催やレジャー農園等の利用を促進する。
- 新規農業者の増加に向けて、農業体験塾で技術を習得した塾生を就農につなげていくための取組を進める。
- 市内の小中学生・保育園児に清須市の伝統野菜の理解を深めてもらうために、農業体験及び料理教室を実施していく。
- 市民が食育を学ぶ場として食育レポートを作成しホームページに掲載していく。
- 土田かぼちゃが愛知の伝統野菜に認定されたことにより、知名度が上がったので、これを機に市内店舗での販売ができるように販売促進に努めていく。

